

留学報告書 ～タイで過ごした4か月で得られたもの～

コンケン大学
経済学部生（中期）

私は8月から約4か月間タイのコンケン大学に留学していました。そこでは数々の経験をしました。異なる言語間でのコミュニケーションの壁や時間に対する考え方の違いなど留学に行かないとすることが出来ないような貴重な経験をすることができました。そこでこれから4つに分けて私の経験したことを紹介したいと思います。

まず初めに時間に対する考え方などの価値観の違いです。私は留学以前、時間にはシビアな考え方だったのですが、4か月間でその考え方は大きく変わりました。タイでの初めての授業に私は日本の大学生活の時と同じように開始5分前に教室に行ったのですが教室には誰もいなく、開始時間の5分後にやっと現地の生徒が来て驚きました。さらに驚いたのは先生が30分も遅れて来たことです。この出来事は極端な例ではありますが時間に対するルーズさをこの時に痛感したことを覚えています。タイの人の性格は温厚でみんな優しいのですがそれがルーズさにも繋がっているのだと思います。この時間に対する考え方は自分がタイで受けた初めてのカルチャーショックでした。

2つ目は大学の授業や英語についてです。現地の大学では、生徒が主体的に動く授業のほうが多く、とてもいい経験ができました。今までは先生が授業を前でやってそれを聞くという授業スタイルでしか受けたことがありませんでしたが、現地の授業は自分で考えることが多かったです。また、タイは日本と同じで英語が第一言語ではない国で独特な訛りがありました。これはただの訛りというよりベースとなっている英語が影響していると思います。日本はアメリカ英語が基礎となっていますが、タイの英語はイギリス英語がベースになっています。私は今までずっと日本でしか英語を勉強してこなかったのが最初はこのタイ人の話す英語を聞き取るのがとても大変でした。ただ、タイ人は優しい人ばかりなのでわからないときは何度も聞き直したり意味を確認したりしました。そうすることで段々と慣れていくことができました。それと同時にコンケン大学の生徒の英語力の高さにも驚きました。正直、私は経済学部ということもありそれほど英語力がありませんでした。ただ、私が一緒に授業を受けていた人文社会学部の英語学科の人たちは私を含めた日本人といるときはタイ人同士で話すときも英語を使ってくれていました。私は帰国する前にタイの国内旅行をしたのですが、帰国をする3日前に急に体調が悪くなり現地の病院に行きました。タイ語は数字くらいしか聞き取ることが出来ないレベルで、病院で自分の症状を伝えられるほどわかりませんでした。そこで英語を使ってお腹が痛くて、下痢が止まらないなどの症状を伝え、理解してもらうことができ薬をもらってなんとか帰国予定日に帰ってくる事が出来ました。私はこのようなことからわからなくても伝える気持ちがコミュニケーションをとるうえでとても大切なことだと実感しました。

3つ目は生活についてです。私は今まで一人暮らしをしたことがなく不安な気持ちがありました。しかし、4か月一人暮らしをしてみた感想としては思っていたよりも楽でした。その最大の理由は食事にあると思います。タイでは自炊するという習慣がなく基本的には食事は外ですというのが一般的だそうです。値段も大学の食堂だと30バーツ(日本円で約100円)でお腹いっぱいになることができました。ただ、タイは辛いものもあるためそこには注意しないとイケませんでした。例えば、現地の人は唐辛子とパパイヤを混ぜたソムタムという料理をよく食べるそうなのですが、一度食べてみたらとても辛かったです。現地では日本と違うことが多々あり、私は現地に順応しようと思いましたが辛い食べ物は最後まで食べることはできませんでした。また、住んでいた寮のオーナーさんがとてもいい人だったので快適に生活することができました。名古屋学院から一緒に行った他の人の寮の

オーナーの方はタイ語しか話すことが出来なかったそうですが、私の住んでいた寮のオーナーの方は英語が話すことができ、「今週末はどこか行くの?」とか「タイの食事は美味しい?」などと気にかけていただいたのでとても心強かったです。また、留学して1週間も経っていないときに体調を崩してしまったときは薬を頂いて本当に助かりました。

4つ目は現地の高校についてです。一緒に留学に行った小野さんがビザの更新に行ったときに現地の高校に日本から日本語を教えに来ている方と知り合いになり、自分も連絡先を教えもらい現地の高校を訪問させていただきました。1,2,3年生の日本語学科の授業を見させていただきました。私は最初に1年生の段階で漢字も勉強していることに驚きました。現地の先生曰く漢字も同時に勉強しないと3年間で日本語の基礎を教えきれないからだそうです。また、授業をコンケン大学の教育学部の生徒がやられていました。その方たちは日本語学科の6年生でその方たちは普通に日本語でコミュニケーションをとることができました。中には日本に1年間も留学していた人もいて、これはコンケン大学の方全員にいえませんが、日本の大学生に比べて意識が高いと感じました。日本だと大学生のほとんどはアルバイトをしていると思いますが、現地の人はほとんどアルバイトをせず遊んだりもしますが、授業終わりに友達と一緒に勉強したりと本来あるべき大学生の姿を見たような気がしました。また、高校で現地の高校生が積極的に日本語で話しかけに来てくれた時はうれしかったです。

最後に、留学をするか悩んでいた時に「留学できる機会なんてそんなにないのだから行ってきたら。」と自分の後押しをしてくれた親や相談に乗っていただいた先生に感謝しています。私は大学に入ってからダラダラと過ごしていましたが、留学をすると決めてからは毎日英語の勉強をして、留学が決まってからはそのための準備をして4か月間の留学もあったという間でした。とても楽しく有意義に過ごせましたが、最後の最後にノロウィルスになってしまい、とても大変な思いをしたのは自分らしいと思いました。

